

コシヒカリの栽培ごよみ

茨城県農業総合センター作成

品質・収量目標

ふるい目	1.85mm
玄米水分	15%
玄米千粒重	21.5g以上
整粒歩合	85%以上
収量	510kg/10a
玄米粗朶パク	6.4%以下

*玄米粗朶パクは水分15%時

月旬	4			5			6			7			8			9			10			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育				2.2葉期		有効分げつ期			無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期	成熟期								
栽培管理		播種		育苗管理	代かき	田植				穂肥					収穫			乾燥・調製			土づくり	
				田植後、低温の場合は、やや深水(5~6cm)にする。	活着後は、浅水(2~3cm)にし、分げつ促進を図る。		中干し	間断かんがい		中干し後は、根の活力を維持するため、引き続き間断かんがいをを行う。				落水							●耕深15cmの確保 ●堆肥の施用 ●稲わらのすき込み	

高品質コシヒカリ生産のための5つのポイント

- 5月5日以降(5~20日)に田植...出穂期を8月上旬に
- 過剰分げつを抑える...穂数400本/m²、籾数3万粒/m²
- 出穂後の適正な水管理...出穂後30日までの間断かんがい
- 適期収穫と適正乾燥...帯緑籾率10%から収穫、玄米水分15%
- 健全な土づくり...耕深15cm確保、土壌改良、堆肥の施用

田植え

- 田植えは5月5~20日に行う。4月下旬~5月上旬田植えは登熟期が高温で乳白などの未熟粒が発生しやすい。
- 株間18cm (18.5株/m²、60株/坪)
- 1株4~5本植え

中干し

- 田植え後35~40日頃を目安に15~20日連続して行う。
- 田面にひび割れができる程度を標準とし、湿田は強めに、漏水しやすい水田は軽めに行う。



中干し始めの適期 中干し適期を過ぎた状態 中干し終了時の状態

土づくり

- 耕深15cmの確保
- 堆肥・稲わらの施用: 堆肥を10a当たり1t程度施用する。稲わらは、刈取り後、分解促進のために、チリ肥料と土壌改良剤を併用して、早い時期にすき込む。
- 土壌改良剤の施用: リン酸・ケイ酸資材の施用に努める。リン酸は分げつや根の張りの促進、ケイ酸は耐病性、耐倒伏性向上に効果が高い。

基肥

- 基肥は、チリ成分で10a当たり3~4kgを基準とし、堆肥施用の有無や地力にあわせて調節する。
- 側条施肥の場合は、基肥施肥量を20%程度減らす。

施肥例

1. 基肥+追肥型

	肥料名(成分N-P-K)	施肥量(kg/10a)	チリ成分(kg/10a)
基肥	コシカ専用(8-20-20)	40~50	3.2~4.0
基肥	アザジン(14-14-14)	20~30	2.8~4.2
穂肥	NK-C6号(17-0-17)	6~12	1.0~2.0

2. 全量基肥型(穂肥は施用しない)

	肥料名(成分N-P-K)	施肥量(kg/10a)	チリ成分(kg/10a)
基肥	かんた君(15-15-15)	20~35	3.0~5.3

穂肥

- 【出穂前20日時の倒伏させない生育診断指標値】
- 1. 草丈80cm以下、葉色4以下
チリ成分で1~2kg/10aを出穂前15日頃(幼穂長30mm)に施用
- 2. 草丈80cm以上、葉色4以上
穂肥施用を遅らせるか行わない。

収穫・乾燥調製

- 出穂後30日頃まで水を入れて品質向上に努める。
- 出穂後35~40日、帯緑籾10%の頃から約5日間が収穫適期。
- 乾燥は高温・急激乾燥を避け、水分15%にじっくり仕上げる。
- 調製は1.85mmの篩目を使用。

育苗

- 種子: 購入種子を利用し、種子更新する。
- 浸種: 水温の積算温度は120℃以上を目標。
- 播種: 1箱当たり、乾籾150gを浸種、催芽後播種(催芽籾約190g)。18~20箱/10a。
- 育苗温度: 出芽まで 28~30℃、2~3日
緑化 15~25℃、2~3日
硬化 10~25℃、10~14日
- 灌水: 播種時に適量行い、緑化時は出来るだけやらない。
- 目標葉齢: 2.2葉(稚苗・育苗日数約20日)



乾籾150g

栽培管理のポイント